

II-438

21世紀を想定した集合住宅の
ごみ処理に対するニーズについて

国立公衆衛生院 正員 田中 勝
京都産業大学 正員 勝矢淳雄
地域計画・建築研究所 正員 ○福岡雅子

1. はじめに

最近、財テクの一環としてのマンション建設や地価高騰による一戸建て住宅の取得困難等の原因により、マンションブームが起こっている。これらのマンションをはじめとする中高層住宅では、従来の戸建て住宅とはごみの貯留、排出等の状況がやや異なっているといえる。すなわち、戸建て住宅ではごみの垂直方向の移動は考えなくてもよかったが、中高層住宅では、上階の居住者はなんらかの手段でごみを階下へ持ち降ろす必要が生じる。また、土地の高度利用により敷地内の居住者密度が高くなっているため、敷地面積当りに排出されるごみ量も多くなると考えられる。これら、中高層住宅におけるごみ処理について、より水準の高い方法を検討していくためには、中高層住宅居住者のニーズを把握しておく必要がある。そこで、今回、中高層住宅の居住者を対象として、ごみ処理に関するアンケート調査を行ったので報告する。

2. 調査の方法

調査対象は、エレベーター、階段で階下に設けられたごみ置き場までごみを運ぶシステムの10階建て以上の高層民間分譲マンション(7カ所)を対象とした。アンケート票は調査対象家庭に直接配布し、1週間留置き後、直接回収した。回答世帯の総数は、416世帯であった。

3. 調査結果及び考察

以下に、ニーズ調査の結果と、それについての考察を示す。

1) マンションにおけるごみ処理の現状と問題点

現在のごみ処理は、全体的にはそれほど大きな不満は持たれていないようだが、生ごみ、空きびん・空き缶、大型ごみについての不満度が高くなっている。(図1)

一方、マンション生活において、困っており早急に改善して欲しいごみとして「台所からの生ごみ」があげられている。なお、不満度は高いが改善要望としてそれほど強くあがってこない、空きびん・空き缶、大型ごみについては、分別が面倒であったり、大型ごみ

収集の電話による依頼が面倒であるという制度上の不満、また、生ごみが日常的に排出されるのに対し大型ごみの排出回数は年に数回であるといったことなどが影響していると考えられる。(図2)

ごみの種類別、貯留、排出時、置き場の問題点は表1のようなものとなった。

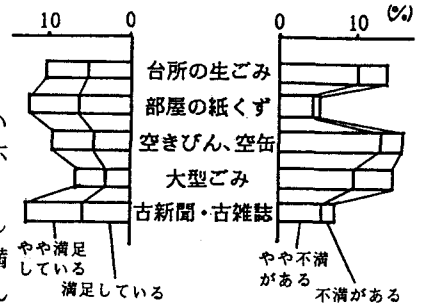


表1 ごみの種類別、貯留、排出時、置き場の問題点

生ごみ、びん・缶の家庭内貯留の問題点

ごみの種類	1 位	2 位	3 位	備考
生ごみ	風呂がする	家の中に生ごみに適した置き場所がない	家の中の置き場所が狭い	特に問題はないという回答が約3割あった
びん・缶	場所を取りじゃまである	家の中に適した置き場所がない	長期向家庭内に貯留しなければならぬ	特に問題はないという回答が約3割あった
共通点	問題点の1位には、生ごみが臭い、びん・缶がかさばるというそれぞれの固有の問題があげられている。2位は、両方共通した置き場所がない、住戸内およびバルコニーでゴミを貯留しなければならぬマンションの問題が示されている。			

ごみの種類ごとのごみ置き場へ排出する際の問題点

ごみの種類	1 位	2 位	3 位	備考
生ごみ	排出日や排出時間が決められている	ごみ置き場まで遠く面倒	生ごみの汁が廊下等にごぼれる	特に問題がないという回答が4割強で最も多かった
びん・缶	排出日や排出時間が決められている	乱雑に捨ててあり見苦しい	びんや缶以外のごみが捨てられている	特に問題がないという回答が約3割あった
大型ごみ	家の中が狭く不要な大型ごみを置けない	大型ごみの収集回数が少ない	収集日や排出時間が決まっている	
共通点	排出日が決まっていることがどのごみについても3位以内にあげられており、問題である。			

生ごみのごみ置き場の問題点

ごみの種類	1 位	2 位	3 位	備考
生ごみ	悪臭がする	犬や猫が突く	乱雑に捨ててあり見苦しい	

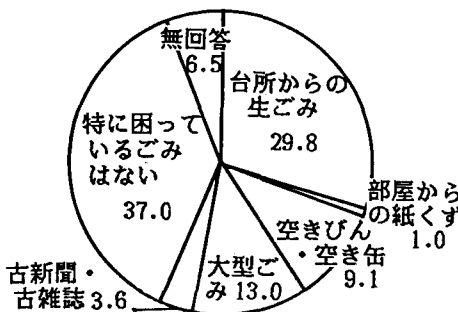


図2 早急に改善して欲しいごみ処理(単数回答%)

2) 新しいごみ処理システムのニーズ

上位で望まれているものは、いずれも、家庭内から発生したごみを即座に屋外に排出できるシステムとなっている。（図3）なお、社会システムの充実強化を希望する人が約2割、家の間取りの工夫を希望する人が約1

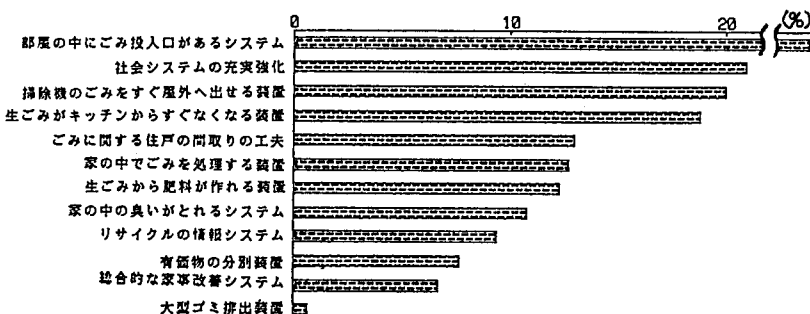


図3 新しいごみ処理システムへのニーズ（複数回答）

割強であった。また、新しいごみ処理システムの開発にあたって、衛生性、利便性、経済性、安全性の要素が強く望まれている。（図4）

新しいごみ処理システムへの費用負担は、ごみ処理にお金をかける必要はないという人も2～3割いるが、設備には1ヵ月あたり10万円までかけてもよいという回答者が約30%、10万円～20万円が約20%を占めていた。（図5）なお、所得の高い人ほど設備や維持管理費用の負担可能金額は高くなるという傾向も見られ、将来所得が増加すれば、必要な費用を負担してでも新しいごみ処理システムを要望する人が増加すると思われる。

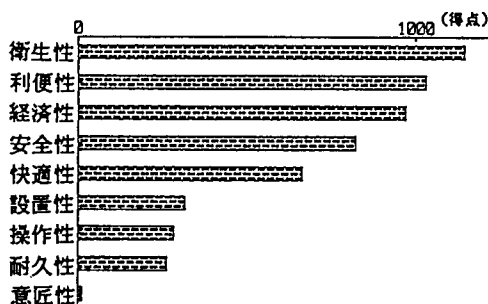


図4 新しいごみ処理システム開発時に重視すべき点

注）9項目の要素について、回答者に1位から5位まで順位付けしてもらったものを1位 5点、2位4点・・・と点数化し総合得点によって表示している。（回答者数：416）

4. まとめ

本調査では、集合住宅居住者のごみ処理について、現在の問題点及び、将来の希望を把握した。全体的には、ごみの排出日時が決められていて、ごみを貯留する必要があるが、家の中にゴミを貯留するのに適した場所がないため困っているようであった。また、将来的に望むシステムは、ごみが手軽に、すぐなくなるシステムとなっているが、現状では、経済性が優先され、費用がかかるものは必要とされていないといえる。しかし、将来、所得が増加することを考慮すれば、利便性、快適性等がより重視されると考えられる。

集合住宅のごみ処理システムは、所得、家族構成、職業等居住者の生活様式及び、社会システムとしての自治体等のごみ処理体制により決定されるといえる。また、生活様式と社会システムも密接に結び付いており、生活様式からのニーズによって、社会システムが変化する場合も、逆に、生活様式が社会システムに規定される場合も有り得る。

本報告では、ニーズ調査結果を中心にまとめたが、今回把握したニーズをもとに、生活様式と社会システムの関係を踏まえて、将来の中高層住宅におけるごみ処理を検討していく必要がある。

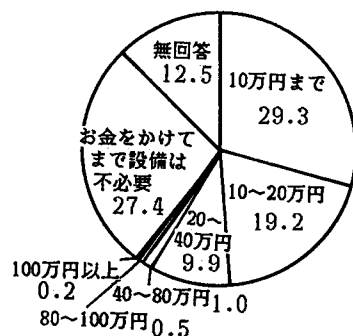


図5 新しいごみ処理システムに対する設備費用負担可能額（1ヵ月当り）

調査に当たって、（社）日本住宅設備システム協会内に設置された集合住宅用新材料・機器システム開発新シーズ廃棄物再資源化等委員会の委員各位のご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。